

みやぎの国営土地改良事業

1. 本県の国営土地改良事業

昭和24年に土地改良法が制定され、国営土地改良事業が規定された。この時点では、国営かんがい排水事業と国営開拓建設事業の2事業であったが、国の政策課題や農業農村の状況に応じて、機動的に見直しが行われ、現在は、国営かんがい排水事業、国営農地再編整備事業、国営総合農地防災事業の3事業となっている。

本県の農地は、西方の奥羽山脈を分水嶺とし東方に緩やかな勾配で河川が下り、北上川、迫川、江合川、鳴瀬川、名取川、阿武隈川等の河川の流域に拓けた耕地が多く、従来は低平地であるため排水不良の湿地帯であり、一方では一度少雨になると用水不足に悩まされていた。このため、これらを解消するために抜本的な用排改良を目的に大規模な国営かんがい改良事業が積極的に実施された。

本県では大規模な農業地域のダム、頭首工、揚水機場、幹線用水路、排水機場、幹線排水路等の基幹施設を国が主体として、基幹施設と連結する末端用排水施設を県が主体で整備を進めてきた。今後は、ストックマネジメント（既存施設を有効に活用して長寿命化を図る体系的手法）により、各地域に必要な不可欠となっている基幹用排水施設の維持増進を確保していく必要がある。

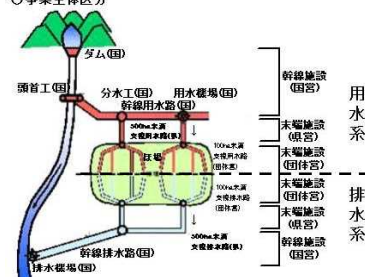
2. 事業地区一覧表

No.	地区名	受益面積 (ha)	関係市町村	総事業費 (百万円)	工期 (着工年度～完了年度)	主要工事
(1) 国営かんがい排水事業						
①	定川	9,614	石巻市、大崎市、東松島市、涌谷町、美里町	3,876	S26～S45	排水制水門1ヶ所、排水機場7ヶ所、揚水機場1ヶ所、排水路他
②	亶理	4,176	亶理町、山元町	2,648	S34～S46	排水機場2ヶ所、河口改良、排水路他
③	旧迫川 〃 (施設整備)	6,413	大崎市、登米市、涌谷町	7,206	S41～S53	用排水機場6ヶ所、用排水路
		6,060		1,091	H09～H11	用排水機場4ヶ所
④	名取川	4,450	仙台市、名取市、岩沼市	19,406	S42～S60	排水機場4ヶ所、頭首工2ヶ所、用排水路
⑤	河南	5,395	石巻市、東松島市、涌谷町、美里町	9,316	S46～S56	揚水機場6ヶ所、用排水路
⑥	中田	4,380	登米市、岩手県一関市	10,010	S47～S62	揚水機場3ヶ所、排水機場2ヶ所他
⑦	迫川上流(一期) 〃 (二期)	10,680	栗原市、登米市、岩手県一関市	64,285	S51～H08	ダム1ヶ所、頭首工5ヶ所、揚水機場他
		(10,490)		24,151	H03～H17	ダム1ヶ所、発電所
⑧	角田	3,460	角田市、丸森町	14,793	S59～H07	排水機場2ヶ所、排水路
⑨	大崎西部	4,621	大崎市、加美町、美里町	21,382	S62～H17	揚排水機場2ヶ所、頭首工4ヶ所他
⑩	鳴瀬川(一期) 〃 (二期)	9,736	大崎市、加美町、色麻町、美里町、涌谷町、東松島市、松島町	62,151	H03～H21	ダム1ヶ所、頭首工2ヶ所
		(9,736)		17,903	H07～H21	頭首工2ヶ所、用水管理施設他
⑪	江合川	5,875	大崎市、美里町、涌谷町	19,905	H05～H19	頭首工、取水工1ヶ所、用水管理施設他
⑫	大崎	10,425	大崎市、加美町、美里町、涌谷町	33,752	H06～H21	ダム1ヶ所
⑬	亶理・山元	4,080	亶理町、山元町	2,902	H08～H12	水管施設1ヶ所、頭首工改修1ヶ所他
⑭	中津山	3,191	石巻市、登米市	15,400	H20～H31	排水機場2ヶ所、排水路
⑮	名取川(応対)	2,653	仙台市、名取市、岩沼市	2,100	H28～H33	頭首工改修1ヶ所
⑯	河南二期(一期)	4,707	石巻市、東松島市、涌谷町、美里町	7,600	H28～H34	排水機場2ヶ所、排水路改修
(2) 国営農地再編整備事業						
⑰	葉山麓(開拓)	787	加美町	1,443	S41～S48	農地開発787ha
⑱	山元(再編)	638	山元町	13,684	H07～H15	区画整理632ha、農地造成6ha

3. 国営事業として申請すべき事業の要件

事業の種類	必要な受益面積(ha)	国営事業	県営事業 (同種事業)
農業水利施設に係るもの			
①かんがい排水事業(水田)		3,000ha以上	200ha以上
②総合農地防災事業		3,000ha以上	30ha以上
農地にかかるもの			
③農地再編整備事業		400ha以上	20ha以上

○事業主体区分



定川農業水利事業

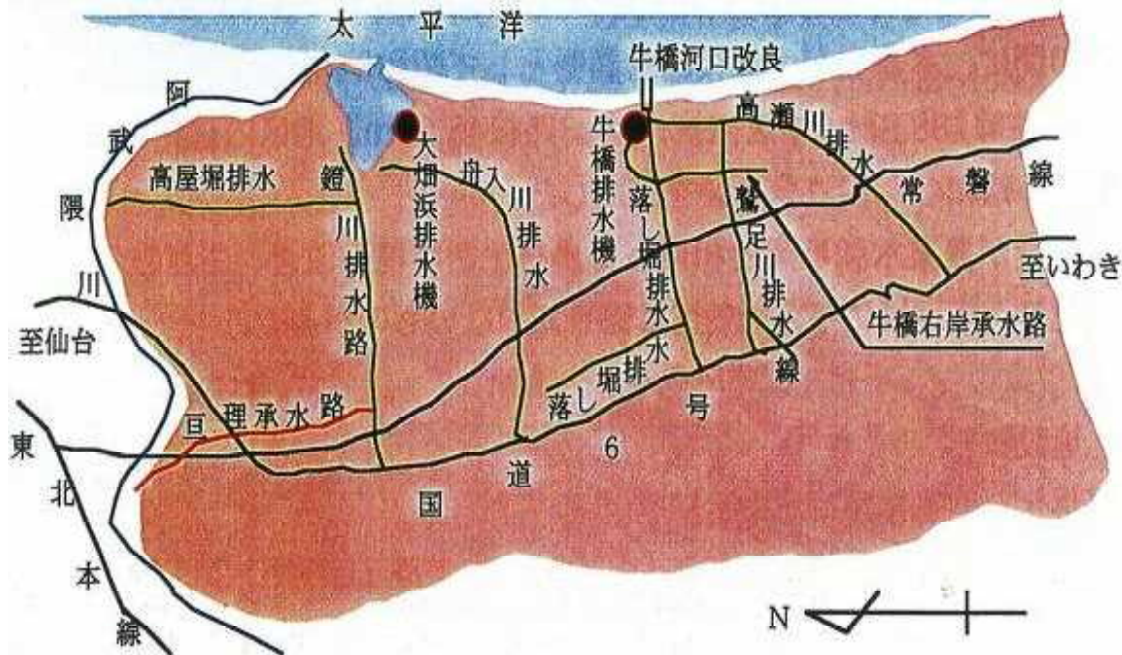
事業名	国営かんがい排水事業				地区名	定川
受益面積	9,614ha (排水改良9,614ha)					
関係市町村	石巻市 (旧河南町)、大崎市 (旧古川市)、東松島市 (旧矢本町、旧鳴瀬町)、涌谷町、美里町 (旧南郷町、旧小牛田町)					
関係土改区	旧定川出来川土地改良区 (関連: 蛇田土改区、広瀬沼土改区、矢本町土改区、矢本町赤井土改区、小牛田町涌谷土改区、名鱒土改区、南郷土改区、不動堂土改区、右京江土改区、青生江土改区、清水川堰土改区、大堰土改区、三郡土改区、大溜池土改区)					
総事業費	当初計画 (S27年度事業確定)	第1回計画変更 (S36年12月26日確定)	第2回計画変更 (S42年3月22日確定)	S45時点総事業費	完了総事業費	
	(7,763ha) 764.5百万円	(7,532ha) 1,550百万円	(9,614ha) 3,150百万円	3,876 百万円	3,876,254 千円	
事業期間 (年度)	調査計画	全体実施設計		工期	施設機能監視	
	S22~S25	—		S26着工~S45完了	—	
負担区分	国: 58%		県: 21%		市町村: — 土改区: 21%	
事業概要	<p>本事業地域は、宮城県北部に位置し、鳴瀬川、江合川、旧北上川の三河川に挟まれた3市2町に跨り、その面積2万数千ha (受益水田9,614ha) に及ぶ。地区中央部を南北に走る旭山丘陵地を境として東西に二分された排水不良の耕地で上下流 (東西) の利害が相反し藩政時代から水争いが絶えず、特に明治25年の「桃遠事件」として伝えられる水争いは有名である。 (即ち、西部地区の排水は、一度降雨出水すれば、江合川・鳴瀬川の水位上昇に伴い江合川明治水門、鞍坪トンネルの逆水門扉が閉鎖され、地区内排水はわずかに旭山丘陵地青木定盤 (狭窄部) から5m³/sが通水されるにとどまり西部地区の湛水被害は甚大なものがあつた。他方東部地域は、定川の平水位より低い地域がかなりの部分を占め常時排水不良に加え定川の荒廃著しく、一層の被害を助長していた。</p> <p>戦後の食糧増産政策に基づき、抜本的な排水改良事業を実施すべく、国営定川農業水利事業が昭和22年着工、23年の歳月と3,876百万円の費用を投じ、地元待望の乾田化が昭和45年に実現した。事業の完成により機械化農業による経営の安定が計られ、地域農業の一層の振興と、地域経済の発展にもたらした効用は計り知れないものがある。</p>					
施設概要	<p>青木川制水門: Q=25.00m³/s (制水門B=2.0m×H3.0m×L=4.0m四連、函渠B=3.6m×H3.0m×L=10.5m二連)</p> <p>排水機場 7ヶ所</p> <ul style="list-style-type: none"> 大曲排水機場: Q=1.20m³/s (軸流φ700×40Ps×1台、φ500×20kw×1台) 柳の目排水機場: Q=1.20m³/s (軸流φ700×40Ps×1台、φ500×15kw×1台) 五味倉排水機場: Q=1.10m³/s (軸流φ700×40Ps×1台、φ400×20kw×1台) 南区排水機場: Q=0.90m³/s (軸流φ600×40Ps×1台、φ400×15kw×1台) 中区第1排水機場: Q=2.61m³/s (軸流φ900×60kw×1台、φ900×65Ps×2台) 中区第2排水機場: Q=0.60m³/s (斜流φ600×30kw×1台、軸流φ900×65Ps×2台) 田沼排水機場: Q=1.14m³/s (軸流φ600×75Ps×1台、φ300×7.5kw×1台) <p>揚水機場 1ヶ所 鷹来揚水機場: Q=0.25m³/s (渦流φ600×30kw×1台)</p> <p>定川改修: L=11.46km、出来川改修: L=13.18km、中江川改修: L=1.20km、青木川改修: L=14.50km 定川機械排水路: L=13.16km、出来川上流部改修: L=4.86km、鞍坪排水路改修: L=15.48km、その他</p>					
位置図及び写真	<p>青木川制水門</p> <p>大曲排水機場</p> <p>柳の目排水機場</p> <p>五味倉排水機場</p> <p>南区排水機場</p> <p>中区第1排水機場</p> <p>中区第2排水機場</p> <p>田沼排水機場</p> <p>鷹来揚水機場</p> <p>旧八丁堰</p> <p>三十軒堰</p> <p>赤井堰</p> <p>出来川非常放水口 (溢流堤)</p> <p>青木・鞍坪分水工</p> <p>鞍坪排水路</p>					

左側の鞍坪排水機場は (県営排水改良事業で施行)

亘理農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業		地区名	亘理	
受益面積	4,176ha (排水改良4,176ha)				
関係市町村	亘理町、山元町				
関係土改区	亘理土地改良区				
総事業費	当初計画 (S34年度事業確定) (4,176ha) 800百万円	第1回計画変更 (S42年度事業確定) (4,176ha) 2,500百万円	S46時点総事業費 百万円 2,607	完了総事業費 千円 2,648,000	
	調査計画		全体実施設計	工期 S34着工～S46完了	施設機能監視
事業期間 (年度)	—				
負担区分	国：62%		県：19%		市町村：— 土改区：19%
事業概要	<p>亘理町、山元町の耕地4,176haは、海岸沿いで標高が低く常時潮汐に支配され50mm/day程度の雨で湛水被害や塩害を被る状況であった。改良計画では許容湛水深を30cmまでとし、それ以上の地表水は地形条件によって自然排水により鳥の海と牛橋入江の河口から流出させ、それ以外は大畑浜、牛橋等の排水機場で強制的に排出することとした。工事計画のポイントは、しばしば閉塞しがちな牛橋入江の河口改良工であった。当初計画では牛橋水系の排水も鳥の海まで大断面の導水路を新設することとしていたが、防潮保安林や内水面漁業権等の対応が困難であることから牛橋入江の河口を改良することとした。漂砂の実体に合わせて極力小規模で維持管理の容易な「砂浜順応型開渠工法」が採用されて当時の排水改良レベルを満足させた。その技術的成果は「土地改良事業計画設計基準（排水計画）」に収録された。</p> <p>事業完了後営農形態が水稻主体から田畑複合に替わり、また宅地造成等によって許容湛水区域が縮小する等流出機構に変化が生じ排水能力を強化する必要性が強まり湛水防除事業や海岸保全事業が実施された。これら事業の完成によって低湿地帯は改良が図られたことにより、その土地利用の高度化・汎用化が可能となり、水稻作を柱にイチゴ等の大規模なハウス栽培による複合経営が定着した。</p>				
施設概要	<p>排水機場 2ヶ所 大畑浜排水機場：Q= 3.39m³/s (φ1,100×80Ps×1台、φ700×30kw×1台) 牛橋排水機場：Q= 2.64m³/s (φ1,000×64Ps×1台、φ700×26kw×1台)</p> <p>河口改良 1ヶ所 牛橋河口改良：Q=73.99m³/s (防潮樋門：鋼製スルースゲート2門、B18.0m×H2.1m、B5.0m×H2.1m)</p> <p>牛橋囲堤：コンクリートブロック護岸</p> <p>排水路 6路線 L=22.3km (鏡川、舟入川、高野堀、落とし堀、鷲足川、高瀬川)</p> <p>承水路 3路線 L=10.8km (牛橋右岸、落とし堀、亘理)</p>				

位置図及び写真



大畑浜排水機場



牛橋排水機場



鏡川排水路



鷲足川排水路

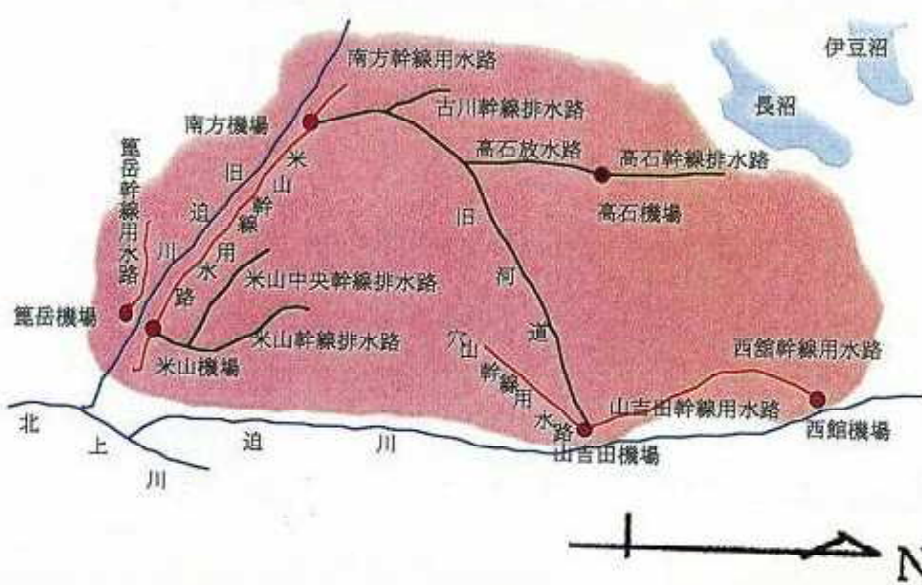








落とし堀排水路



亘理承水路

旧迫川農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業		地区名	旧迫川	
受益面積	6,413ha (排水改良6,225ha、その他158ha)				
関係市町村	登米市(旧迫町、旧米山町、旧南方町、旧豊里町)、大崎市(旧田尻町)、涌谷町				
関係土改区	迫川沿岸土地改良区、旧迫川右岸土地改良区				
総事業費	当初計画(国かん) (S42年1月19日確定) (6,413ha) 2,740百万円	第1回計画変更(国かん) (S54年3月30日確定) (6,413ha) 7,140百万円	S53時点総事業費 百万円 7,321	完了総事業費 千円 7,206,423	
	当初計画(施設整備) (H9年度確定) (6,060ha) 1,200百万円	—	H11時点総事業費(施設整備) 百万円 1,102	完了総事業費(施設整備) 千円 1,091,351	
事業期間 (年度)	調査計画	全体実施設計	工 期	施設機能監視	
	S38	S39~S40(国かん)	S41着工~S53完了(国かん) H9着工~H11完了(施設整備)	—	
負担区分	国：60.00%(国かん) 国：2/3(施設整備)	県：20.00%(国かん) 県：17.00%(施設整備)	市町村：— 市町村：6.00%(施設整備)	土改区：20.00%(国かん) 土改区：10.33%(施設整備)	
事業概要	<p>本事業地区は宮城県北部に位置し、北上川支流の迫川右岸に展開する広大な低平地で、登米市外1市1町に跨る6,413haの水田単作地帯である。この地域の大部分は、迫川及び北上川の遊水池であったが、昭和6年新北上川の開削、昭和15年新迫川の開削がなされたことにより急速に造成された耕地が多く、営農形態は稲作中心であるが近年は野菜・飼料作物等の畑作及び畜産の生産拡大が見られる。地区内の用排水路の殆どは錯綜する旧来の用排兼用土水路と、不安定な水源57ヶ所におよぶ小規模排水機場によって対処しているが老朽化が著しく、降雨の度に湛水被害が発生し農作業の機械化が進まず、営農の近代化が大きく立ち遅れている状態であった。昭和19~25年にかけて度重なる大洪水に見舞われたため、治水と沿岸開発の両面から、昭和28~29年に建設省・宮城県土木部によって北上川・迫川の改修全体計画が樹立され、また地元関係6町から要請された土地改良事業が治水計画と一致し国営事業が着工する運びとなったのである。</p> <p>本事業では地区内の用排水改良を目的に用排水系等の整備統合、用排水路の新設・改修を行い、併せて大規模ほ場整備事業を実施すると共に、湿田に対する暗渠排水を行い乾田化を促進し農業生産の向上と農業経営の合理化・安定化を図った。この事業による用排水施設の整備と大規模ほ場整備の実施によって、農業生産性の向上・農業経営の安定等近代化が図られている。</p>				
施設概要	<p>用排水機場 6ヶ所 西館機場：Q=1.90m³/s (φ800mm×100kw×1台、φ550mm×30kw×1台) 山吉田機場：Q=8.21m³/s (φ1,100mm×190kw×3台) 米山機場：Q=18.91m³/s (φ1,400mm×290kw×1台、φ900mm×125kw×1台、φ1,700mm×490Ps×2台) 篁岳機場：Q=4.40m³/s (φ1,000mm×170kw×2台) 南方機場：Q=15.21m³/s (φ1,500mm×190kw×2台、φ1,000mm×210kw×1台、φ1,500mm×260Ps×1台) 高石機場：Q=11.43m³/s (φ1,200mm×140kw×1台、φ550mm×60kw×1台、φ1,800mm×420Ps×1台)</p> <p>排水路 6路線 L=19.7km (旧河道、高石、古川、米山、米山中央、高石放水路) 用水路 6路線 L=21.1km (西館幹線、山吉田幹線、穴山幹線、米山幹線、南方幹線、篁岳幹線) 施設整備 用排水機場 4ヶ所 (西館機場、山吉田機場、南方機場、高石機場)</p>				
位置図及び写真					
					
	西館機場	米山機場	山吉田機場	篁岳機場	南方機場
					
					高石機場

名取川農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業				地区名	名取川
受益面積	4,450ha (用水改良4,450ha、排水改良4,260ha)					
関係市町村	仙台市(旧仙台市)、名取市、岩沼市(旧岩沼町)					
関係土改区	名取土地改良区					
総事業費	当初計画 (S43年5月13日確定) (4,112ha) 3,110百万円	第1回計画変更 (S49年11月1日確定) (4,238ha) 6,650百万円	第2回計画変更 (S56年6月22日確定) (4,480ha) 17,700百万円	S60時点総事業費 百万円 19,406	完了総事業費 千円 19,406,129	
	事業期間 (年度)	調査計画 S34~S39	全体実施設計 S40~S41	工期 S42着工~S60完了	施設機能監視 -	
負担区分	国:58%		県:21%		市町村:- 土改区:21%	

事業概要

本事業地区は、宮城県南部に位置し、名取川と阿武隈川に挟まれ太平洋沿いに接した仙台・名取・岩沼の三市に跨る通称名取耕土と呼ばれてきた、低平な約8,100haの地域である。「名取」とはアイヌ語の湿地に由来するといわれ、高潮や降雨による宿命的な湛水被害から脱却することが地域的な課題となっていた。当事業は農業近代化等の社会的な要請と相俟って、地域内における穀倉地4,450haの農民の総意によって推進された一大事業である。

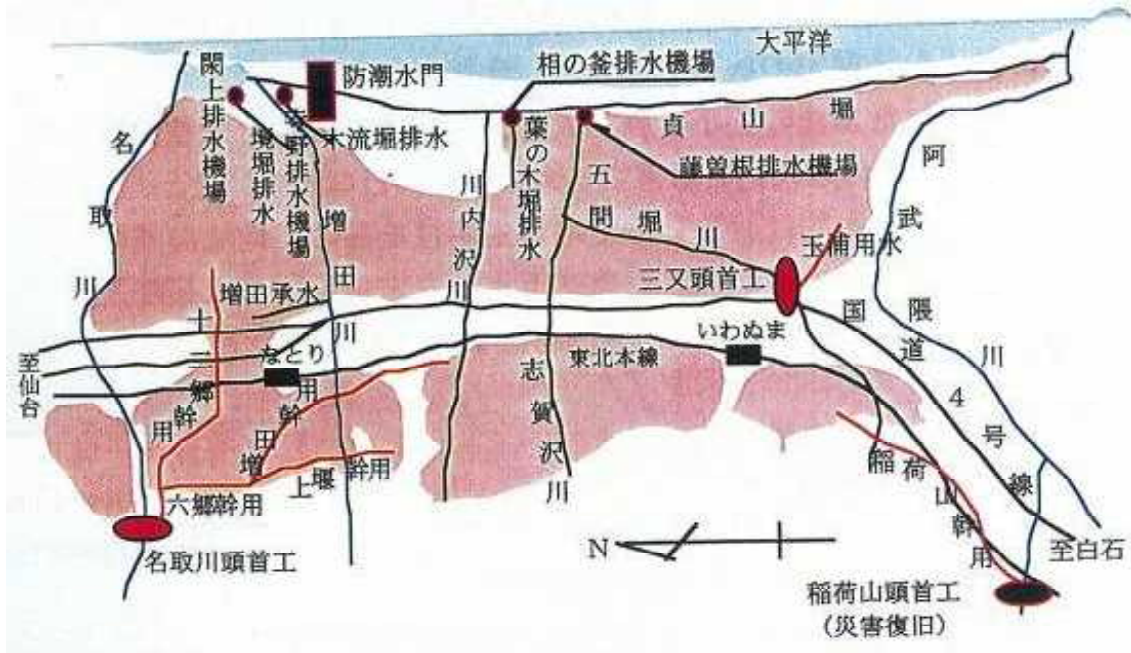
排水施設の整備は地区内流下の五間堀川と川内沢川及び貞山運河を改修し、排水能力を強化すると共に、上位部洪水の自然排水を図る一方、地域低部位については強制(機械)排水施設を整備し排水能力の強化を図った。

用水施設の整備は名取頭首工(改修)と稻荷山堰(既設利用)による他流域からの取水により、合わせて12.1m³/secの水量を地域内へ配水することによって、土地生産性の向上(同時にほ場整備による乾田化)を図った。当事業は用水施設の整備に約20%(39億円)、排水施設の整備に80%(155億円)の事業費を投じており、これによって完成した施設は名取土地改良区が維持管理している。

施設概要

貞山運河改修: Q=132.3m³/sec (L=12.5km)
 排水機場 4ヶ所 関上排水機場: Q=9.25m³/s (φ1,100mm×120Ps×3台、φ900mm×55kw×1台)
 寺野排水機場: Q=9.00m³/s (φ1,100mm×145Ps×3台、φ800mm×55kw×1台)
 相の釜排水機場: Q=7.00m³/s (φ1,000mm×105Ps×3台、φ800mm×55kw×1台)
 藤曽根排水機場: Q=7.50m³/s (φ1,000mm×110Ps×3台、φ800mm×55kw×1台)
 名取川頭首工: 農水Q=9.29m³/s、工水Q=100千m³/日、上水Q=44千m³/日 (L=133.8m、L=3.476m)
 三又頭首工: Q= 2.1m³/s、L=36.0m
 防潮水門: Q=132.3m³/s、L=55.0m、H=3.05m (ローラーゲート16.9m×3門)
 河川改修: 五間堀、川内沢川等改修L=23.3km
 幹線用水路: L=20.1km、排水路: L=23.6km

位置図及び写真



関上排水機場



寺野排水機場



相の釜排水機場



藤曽根排水機場



名取川頭首工



防潮水門



三又頭首工

河南農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業			地区名	河南
受益面積	5,395ha (用排水改良5,395ha)				
関係市町村	石巻市 (旧石巻市, 旧河南町)、東松島市 (旧矢本町)、涌谷町、美里町 (旧南郷町)				
関係土改区	河南矢本土地改良区 (関連: 大溜池土改区、桃生郡矢本町土改区、遠田・桃生・牡鹿三郡土改区連合、涌谷町名鱸土改区、遠田郡南郷土改区)				
総事業費	当初計画 (S47年5月22日確定) (5,395ha) 4,200百万円	S56時点総事業費 百万円 9,334	完了総事業費 千円 9,315,645		
	調査計画	全体実施設計	工期	施設機能監視	
事業期間 (年度)	S43~S44	S45	S46着工~S56完了	-	
負担区分	国: 58%		県: 21%	市町村: -	土改区: 21%
事業概要	<p>本事業地区は、宮城県北東部太平洋岸に位置し、北は旧北上川と江合川に接し、南は北上運河に至る南北16km、東西は旧北上川より旭山丘陵地西に至る12kmの地域で、石巻市他1市2町に跨る5,395haの水田を有する平地農村地帯である。地区の約6割は、国営定川農業水利事業の受益地として、宿願の常習排水不良地帯からの脱却を切望していた。又本地域の周辺は石巻臨海工業地帯として、現在発展途上にあり、石巻市はもとより、仙台市、塩釜市の経済圏内にある。従って農産物の供給基地として、発展すべき条件を具備しており、農業に対する依存度が極めて高い地域である。一方、地区の基幹用水施設は、建設後30有数年経過しているため、老朽化による容量低下に加え、農業形態等の進展に伴う水需要が増大し、用水不足が著しく、排水路を堰上げたり応急ポンプ揚水によって、辛うじて用水を確保していた状況であった。</p> <p>本事業は、以上の状況を改良すべく、国営事業として基幹揚排水機場6ヶ所と、基幹用排水路約21.3kmの新設・改修を行い、用排水系統の合理的再編成を図り、併せて附帯県営事業により、末端用排水施設の施設・改修、ほ場整備を実施し、農業生産基盤を整備し、大型機械化農業を可能ならしめ、生産性の向上並びに農業経営の近代化を図ったものである。</p>				
施設概要	<p>揚水機場 6ヶ所 和淵揚水機場 : Q= 6.89m³/s (φ 900mm×125kw×4台) 中山揚水機場 : Q= 9.24m³/s (φ 1,000mm×220kw×4台) 前谷地揚水機場 : Q= 3.94m³/s (φ 900mm×200kw×2台2段揚水) 小松揚水機場 : Q= 3.57m³/s (φ 900mm×120kw×2台2段揚水) 柏木揚水機場 : Q= 0.43m³/s (φ 450mm×30kw×1台) 箕入揚水機場 : Q= 2.27m³/s (φ 1,000mm×240kw×1台)・・・排水兼用 排水機場 1ヶ所 箕入排水機場 : Q=14.00m³/s (φ 1,350mm×200kw×2台、φ 1,000mm×240kw×2台) 排水用水路: 4路線 L=18.5km (矢本・三郡・和淵・箕入)、排水路: 1路線 L= 2.8km (二間堀) 用水管理施設 1ヶ所</p>				
位置図及び写真					
	和淵揚水機場	中山揚水機場	前谷地揚水機場	小松揚水機場	柏木揚水機場
	三郡幹線用水路	二間堀排水路	用水管理施設		

中田農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業		地区名	中田	
関係市町村	登米市（旧中田町、旧迫町、旧石越町）、岩手県一関市（旧磐井郡花泉町）				
受益面積	4,380ha（宮城県分：4,280ha、岩手県分：100ha）、用水改良4,170ha、排水改良1,800ha）				
関係土改区	北上川沿岸中田地区土地改良区				
総事業費	当初計画 (S48年3月2日確定) (4,196.5ha) 2,700百万円	第1回計画変更 (S58年5月2日確定) (4,380ha) 9,700百万円	S62時点総事業費 百万円 10,017	完了総事業費 千円 10,010,475	
	事業期間 (年度)	調査計画 S42～S43	全体実施設計 S44～S46	工期 S47着工～S62完了	施設機能監視 —
負担区分	国：60%		県：20%		市町村：— 土改区：20%
事業概要	<p>本地域の用水は、水源を北上川に依存する旧大泉及び旧水越揚水機場によりかんがいされていたが、両揚水機場は、施設の老朽化と北上川の河床低下により取水機能低下が著しく、用水の絶対量が不足し、また用水路のほとんどが用排水兼用の土水路のため水路を堰上げして反復利用し、かんがい最盛期には番水制によるかんがいをするなど、用水確保に多大な労力と経費を費やしてきたところである。一方、排水は地域の高位部を境に北部と南部に区分され、南部は既に排水施設が整備されているが、北部は既存の糠塚及び西田排水機場は老朽化による機能低下が著しく、更に糠塚及び桜場排水路は土水路のため、法面崩落などによる通水能力が不足し、湛水被害を被ってきたところである。</p> <p>このような状況を改善するために、用水については、現況の用水系統を生かす形で計画したもので、上流に位置する大泉揚水機場は取水工及び導水トンネルを現況より3m下げて用水を安定的に取水できるような構造に、又、下流の水越揚水機場は大泉と同様に水量を増量した施設に新設改修した。糠塚及び西田排水機場は計画降雨量に対応して、排水能力をアップして新設した。これらの工事が実施されたことにより、用水が安定的に供給され、又、排水についても、大降雨時にも湛水被害を被ることもなく今日に至っている。また、農業用施設の維持管理費が軽減され農家の農業経営に寄与している。</p>				
施設概要	揚水機場 3ヶ所	大泉揚水機場：Q=10.00m ³ /s (φ1,300mm×420.0kw×3台) 水越揚水機場：Q= 3.75m ³ /s (φ 900mm×225.0kw×2台) 桜場揚水機場：Q= 1.46m ³ /s (φ 500mm× 18.5kw×3台)			
	排水機場 2ヶ所	糠塚排水機場：Q= 3.50m ³ /s (φ 900mm×120.0Ps×1台、φ 800mm×90Ps×1台、φ 600mm× 45.0kw×1台) 西田排水機場：Q= 3.50m ³ /s (φ 900mm×110.0kw×1台、φ 800mm×85Ps×1台、φ 600mm× 37.0kw×1台)			
	用水路：3路線 L=17.7km（大泉、水越、石森）、排水路：2路線 L=5.0km（糠塚、桜場）				
位置図及び写真					
	大泉揚水機場	水越揚水機場	桜場揚水機場	糠塚排水機場	西田排水機場
	石森幹線用水路	糠塚幹線排水路			

迫川上流農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業		地区名 迫川上流		
関係市町村	栗原市(旧築館町、旧若柳町、旧栗駒町、旧一迫町、旧鶯沢町、旧金成町、旧志波姫町、旧花山村)、登米市(旧石越町)、岩手県一関市				
受益面積	10,680ha(用水改良10,680ha)				
関係土改区	迫川上流土地改良区連合、三迫川沿岸土地改良区、若柳川南土地改良区、一迫川沿岸土地改良区、三迫川沿岸土地改良区、石越土地改良区				
総事業費	当初計画(一期) (S53年6月事業確定) (9,950ha) 31,400百万円	第1回計画変更(一期) (S63年10月13日確定) (10,700ha) 48,247百万円	第2回計画変更(一期) (H4年3月16日確定) (10,680ha) 50,966百万円	H7時点総事業費(一期) 百万円 64,285	完了総事業費(一期) 千円 64,284,603
	当初計画(二期) (H4年3月事業確定) (10,680ha) 7,738百万円	第1回計画変更(二期) (H12年5月12日確定) (10,490ha) 26,773百万円	- 百万円	H17時点総事業費(二期) 百万円 24,081	完了総事業費(二期) 千円 24,150,627
事業期間(年度)	調査計画	全体実施設計	工 期	施設機能監視	
	S46~S48	S49~S50	S51着工~H8完了(一期) H3着工~H17完了(二期)	H18~H20	
負担区分	国: 57.71%(一期)	県: 22.74%(一期)	市町村(賦分): 19.55%(一期)		
	国: 66.58%(二期)	県: 20.44%(二期)	市町村(賦分): 12.98%(二期)		
事業概要	<p>本地区は宮城県北部の栗原市、登米市及び岩手県一関市に展開する広大で肥沃な栗原耕土、金成耕土からなる水田約10,680haの農業地帯であり、銘柄米ササニシキ及びひとめぼれの主山地を形成している。主な水源は、北上川水系迫川及びその支流の三迫川、三迫川並びに花山ダム(迫川)、栗駒ダム(三迫川)に依存しているが、河川の自流量が乏しいため、排水河川の堰上げ及び強力な番水制の実施により、かろうじて用水不足に対処しており、恒常的な水不足を呈している状況であった。また、取水施設は藩政時代の施設で、老朽化が著しく小規模な施設が多いため、維持管理に多大な労力と費用を費やしていた。また、ほ場区画は未整備、小区画が大部分を占め、地区の下流部は湿田ないし半湿田状態にあった。</p> <p>このため、三迫川上流に荒砥沢ダム、迫川支川長崎川に小田ダムの新設と頭首工(5ヶ所)の改修、揚水機場(2ヶ所)及び用水路(7路線、54.1km)の新設改修を行い用水の確保と安定供給を図るものである。併せて、その他関連事業により末端排水路の整備、区画整理等の基盤整備を実施し、営農の合理化と複合経営の促進を図り、農業経営の安定に資するものである。なお、荒砥沢ダム及び小田ダムについては、宮城県の治水事業の共同事業として実施し、地域の総合開発に資するものである。</p>				
施設概要	<p>【迫川上流一期】</p> <p>荒砥沢ダム：中心遮水ゾーン型ロックフィルダム、ダム総貯水量13,850千m³ ダム有効貯水量12,840千m³ (H=74.4m、L=414.3m)</p> <p>頭首工 5ヶ所 軽辺頭首工：Q=3.78m³/s (L=77.7m、H=2.2m)、板倉頭首工：Q=4.13m³/s (L=42.5m、H=3.20m) 一の堰頭首工：Q=5.19m³/s (L=62.1m、H=2.4m)、伊豆野頭首工：Q=8.05m³/s (L=81.8m、H=2.05m) 川台頭首工：Q=4.32m³/s (L=81.8m、H=2.4m)</p> <p>揚水機場 2ヶ所 新山揚水機場：Q=3.85m³/s (φ500mm×1台、φ800mm×1台) 石越揚水機場：Q=2.67m³/s (φ600mm×1台、φ900mm×1台)</p> <p>用水路：7路線 L=54.1km(軽辺、板倉、一の堰、伊豆野、川台、新山、石越)</p> <p>【迫川上流二期】</p> <p>小田ダム：中心遮水ゾーン型ロックフィルダム、ダム総貯水量9,720千m³ ダム有効貯水量 9,010千m³ (H=43.5m、L=520.0m)、荒砥沢発電所</p>				

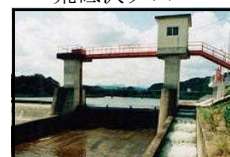
位置図及び写真



荒砥沢ダム



小田ダム



軽辺頭首工



板倉頭首工



一の堰頭首工



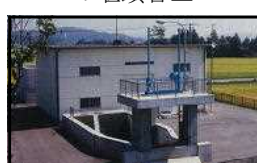
伊豆野頭首工



川台頭首工



新山揚水機場



石越揚水機場

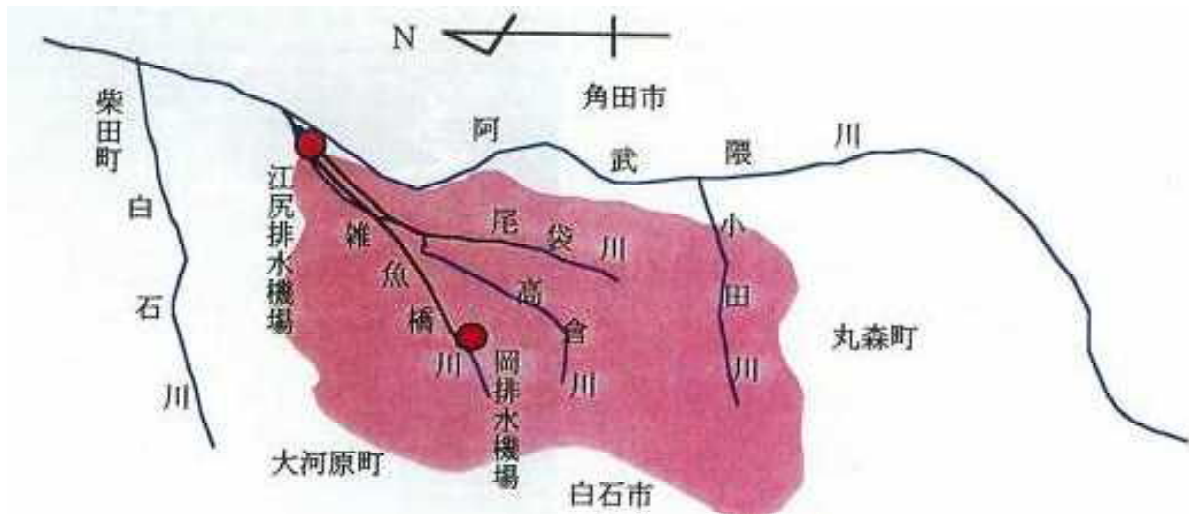


荒砥沢発電所

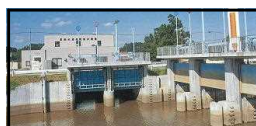
角田農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業			地区名	角田
関係市町村	角田市、丸森町				
受益面積	3,460ha（用水改良2,490ha、畑かん970ha）				
関係土改区	角田土地改良区				
総事業費	当初計画(国かん) (S60年3月事業確定) (3,460ha) 12,000百万円	H7時点総事業費(国かん) 百万円 14,793	完了総事業費(国かん) 千円 14,792,862		
	調査計画	全体実施設計	工期	施設機能監視	
事業期間(年度)	S55～S57	S58	S59着工～H7完了	-	
負担区分	国：60%	県：20%	市町村：8%	土改区：12%	
事業概要	<p>この地区は、阿武隈川下流の左岸で角田市と丸森町に跨り、水田を中心として畑、果樹園、桑園等が農地として利用されている。しかし、昔からこの地区は阿武隈川の氾濫による冠水被害の常習地帯で、寛永のころ（1638年頃）より阿武隈川から地区内への逆流を防止する閘門等が設置されて、更に昭和4年に江尻第1排水機場、昭和8年に江尻第2排水機場が設置されて、農地ばかりでなく農地以外の住宅地の冠水被害の防止にも効果を上げていた。それでも50年以上も使用しているうちに、ポンプ等の機械の老朽化が進み、排水能力が低下してきた。また、農業経営を安定させるため、水田を畑としても使用できるように、排水能力を高めることも必要とされるようになった。このようなことから、新しく排水機場を建設し、排水路の改修も行うこととなり、昭和59年から工事が始まり平成8年3月に完了した。</p> <p>排水機場は大雨のときに、遅れる事なくまた確実に運転できるように日常の保守とメーカーによる定期点検を行うと共に、排水運転は江尻排水機場と岡排水機場のゲート操作による自然排水から始まり、江尻機場の可動翼ポンプの運転、両機場のポンプ台数の組合せ等による運転によって、最も排水が早い経済的な運転が実施されている。この排水機場の運転により農地の排水と共に、以前は大雨のたびに数日間も水の退かなかった一般住宅地も短時間に水位が下がり、一般市民にとってもその効果が、期待され喜ばれる事業であった。</p>				
施設概要	<p>排水機場 2ヶ所 江尻排水機場：Qmax=62.0m³/s(φ2,600mm×1,300ps×2台、φ2,600mm×1,000Ps×2台) 岡排水機場：Qmax=6.0m³/s(φ1,200mm×90kw×2台)</p> <p>排水路：2路線 L=9.2km(尾袋川、雑魚橋川) 排水管理施設：江尻排水機場からの遠方監視制御装置</p>				

位置図及び写真



江尻排水機場



岡排水機場



尾袋川排水路



雑魚橋川排水路



管理施設操作室

大崎西部農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業		地区名	大崎西部	
受益面積	4,621ha (用水改良4,621ha、排水改良540ha)				
関係市町村	大崎市 (旧古川市、旧岩出山町、旧三本木町)、加美町 (旧中新田町)、美里町 (旧小牛田町)				
関係土改区	大崎土改良区				
総事業費	当初計画 (S63年2月事業確定) (3,920ha) 20,000百万円	第1回計画変更 (H6年9月10日確定) (4,770ha) 16,700百万円	第2回計画変更 (H12年7月12日確定) (4,621ha) 23,000百万円	H17時点総事業費 百万円 21,500	完了総事業費 千円 21,381,641
	事業期間 (年度)	調査計画 S57~S59	全体実施設計 S60~S61	工期 S62着工~H17完了	施設機能監視 H18~H20
	負担区分	国: 62.92% 県: 19.67%		市町村: 6.69% 土改区: 10.72%	
事業概要	<p>本地区は、宮城県の北部に位置し、北上川水系江合川と鳴瀬川水系多田川沿いに展開する大崎市外2町に跨る水田4,621haの地域で、県内有数の穀倉地帯である。この地区のかんがい用水は、主要水源を江合川及び地区内小河川等に依存しているが、いずれも河川自流量に乏しく恒常的な用水不足を呈しており、水路の堰上げや揚水機による反復利用及び番水等により辛うじて用水不足に対処している状況にある。また、地区内の下流底位部では、排水施設の未整備や洪水時における排水河川の水位上昇から排水機能が低下するため、常習的な湛水地帯となっている。さらに、取水施設は小規模で老朽化が著しいうえ、水路は用排水兼用で土水路が多く、加えて末端用排水施設の不備と農道及びほ場区画の狭小等により、水田の汎用化や農業の生産性向上が阻害されていた。</p> <p>このため、不足する用水については関連する大崎農業水利事業で築造する岩堂沢ダムに依存して農業用水を確保し、頭首工、揚水機場及び用水路を新設、改修して、用水の安定供給と用水管理の合理化を図るとともに、排水機場及び排水路の改修を行い排水不良を解消し、水田の汎用化を図る。併せて、関連事業により末端排水路の整備及び区画整理等の土地基盤整備を実施し、営農の合理化と複合経営を促進し、地域農業の生産性向上と農業経営の安定化を図るものである。</p>				
施設概要	<p>大堰頭首工 : Q=11.96m³/s、L=268.4m、H=2.6m (固定堰、洪水吐2門、土砂吐1門)</p> <p>二ツ石頭首工 : Q= 2.34m³/s、L= 90.2m、H=1.7m (ゴム引布製起伏堰、洪水吐2門、土砂吐1門)</p> <p>清水川頭首工 : Q= 1.74m³/s、L=138.2m、H=0.9m (ゴム引布製起伏堰、洪水吐3門、土砂吐1門)</p> <p>門前頭首工 : Q= 2.03m³/s、L= 8.0m、H=1.2m (ゴム引布製起伏堰、洪水吐1門、土砂吐1門)</p> <p>第2号幹線揚水機場 : Q= 3.04m³/s (横軸斜流φ 800mm×90kw×2台)</p> <p>米袋排水機場 : Q=10.00m³/s (横軸斜流φ 1,200mm×280Ps×2台、φ 1,000mm×90kw×2台)</p> <p>幹線用水路 : 3路線 L=20.2km</p> <p>幹線排水路 : 1路線 L= 0.4km</p>				
位置図及び写真					
	大堰頭首工	二ツ石頭首工	清水川頭首工	門前頭首工	米袋排水機場
	第2号幹線揚水機場				

鳴瀬川農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業			地区名	鳴瀬川
受益面積	9,736ha (用水改良9,736ha)				
関係市町村	大崎市 (旧古川市、旧松山町、旧鹿島台町)、加美町 (旧宮崎町)、色麻町、美里町 (旧南郷町、旧小牛田町)、涌谷町、東松島市 (旧鳴瀬町、旧矢本町)、松島町				
関係土改区	加美郡西部土地改良区、加美郡色麻町土地改良区、鳴瀬川土地改良区、志田郡桑折江土地改良区、遠田郡南郷土地改良区、小牛田町土地改良区、鶴田川沿岸土地改良区、鹿島台東部土地改良区				
総事業費	当初計画(全体) (H4年6月事業確定) (9,870ha) 56,800百万円	第1回計画変更(一期) (H20年2月29日確定) (9,736ha) 62,380百万円	H21時点総事業費(一期) 百万円 62,352	完了総事業費(一期) 千円 62,151,260	
		第1回計画変更(二期) (H20年2月29日確定) (9,736ha) 17,420百万円	H21時点総事業費(二期) 百万円 17,945	完了総事業費(二期) 千円 17,902,979	
事業期間 (年度)	調査計画 S59～S62	全体実施設計 S63～H2	工 期		施設機能監視
	—	—	H3着工～H21完了(一期) H7着工～H21完了(二期)		H22～H24 H22～H24
負担区分	国：69.30%(一期) 国：2/3(二期)	県：24.27%(一期) 県：17.00%(二期)	市町村：5.39%(一期) 市町村：6.00%(二期)	土改区：1.04%(一期) 土改区：10.34%(二期)	
事業概要	<p>本地区は、宮城県の北部に位置し、一級河川鳴瀬川水系鳴瀬川両岸に展開する大崎市外1市5町に跨る水田9,736haの農業地域で、県内有数の穀倉地帯である。かんがい用水は、鳴瀬川、田川及び小河川等に依存しているが、いずれも河川自流量に乏しいため番水等による水利用を余儀なくされており、恒常的な用水不足の状況にある。さらに、用水施設の老朽化により維持管理に多大な労力と費用を要しているとともに、末端水路は用排水兼用で土水路が多く、加えてほ場区画の狭小なため、水田の高度利用や農業の生産性向上の阻害されている。</p> <p>このため、本事業は、二ツ石ダムの築造、頭首工及び用水路の新設、改修を行い、関連する鳴瀬川総合開発事業で築造される筒砂子ダムとともに必要な農業用水を確保し、安定供給を図るものである。併せて、関連事業により末端用排水施設の整備と区画整理を行い、営農の合理化と複合経営を促進し、農業の生産性向上と農業経営の安定を図るものである。</p>				
施設概要	<p>【鳴瀬川一期】 二ツ石ダム：ゾーン型ロックフィルダム、ダム総貯水量10,600千m³、有効貯水量9,700千m³ (H=70.5m、L=439.0m) 頭首工 3ヶ所 桑折江頭首工：Q=4.53m³/s、L=86.6m、H=3.9m (洪水吐2門) 鳴瀬川下流頭首工：Q=9.27m³/s (左岸)、Q=3.39m³/s (右岸)、L=116.8m、H=3.8m 館前頭首工：Q=1.94m³/s、L=78.4m、H=1.8m (洪水吐3門)</p> <p>【鳴瀬川二期】 頭首工 1ヶ所 上川原頭首工：Q=4.60m³/s、L=226.5m、H=2.3m (洪水吐4門) 幹線用水路：6路線 L=35.7km、用水管理施設：1式</p>				

概要図及び写真



二ツ石ダム



桑折江頭首工



鳴瀬川下流頭首工



館前頭首工



上川原頭首工

江合川農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業		地区名	江合川
受益面積	5,875ha (用排水改良5,804ha、排水改良2,024ha (うち排水単独71ha))			
関係市町村	大崎市 (旧古川市、旧田尻町)、美里町 (旧小牛田町、旧南郷町)、涌谷町			
関係土改区	江合川沿岸土地改良区、小牛田町土地改良区、涌谷町土地改良区			
総事業費	当初計画 (H6年9月事業確定) (5,960ha) 42,000百万円	第1回計画変更 (H12年7月12日確定) (5,875ha) 23,000百万円	H19時点総事業費 百万円 20,450	完了総事業費 千円 19,904,531
	事業期間 (年度)	調査計画 S61～H元	全体実施設計 H2～H5	工期 H5着工～H19完了
負担区分	国：2/3		県：18.10%	市町村：6.63% 土改区：8.94%
事業概要	<p>本地区は、宮城県の北部に位置し、北上川水系江合川の両岸に広がる大崎市外2町に跨る水田5,875haの地域で、県内有数の穀倉地帯である。この地区のかんがい用水は、主要水源を江合川及び地区内小河川等に依存しているが、いずれも河川自流量に乏しく恒常的な用水不足を呈しており、水路の堰上げや揚水機による反復利用及び番水等により辛うじて用水不足に対処している状況にある。また、地区内の下流低位部では、排水施設の未整備や洪水時における排水河川の河川水位上昇から排水機能が低下するため、常習的な湛水地帯となっている。さらに、取水施設は小規模で老朽化が著しいうえ、水路は用排水兼用で土水路が多く、加えて末端用排水施設の不備と農道及びほ場区画の狭小等により、水田の汎用化や農業の生産性向上が阻害されている。</p> <p>このため、不足する用水については関連する大崎農業水利事業で築造する岩堂沢ダムに依存して農業用水を確保し、頭首工及び用水路を新設、改修して用水の安定供給と用水管理の合理化を図るとともに、排水機場及び排水路の新設、改修を行い排水不良を解消し、水田の汎用化を図る。併せて、関連事業により末端用排水路の整備及び区画整理等の土地盤整備を実施し、営農の合理化と複合経営を促進し、地域農業の生産性向上と農業経営の安定を図るものである。</p>			
施設概要	<p>三丁目頭首工 : Q=11.43m³/s、L=364.1m、H=1.3m (洪水吐4門) 右京江取水工 : Q= 2.96m³/s (取水門2.2m×1.5m×1門) 田尻川排水機場 : Q= 8.87m³/s (横軸斜流、φ1,200mm×280Ps×2台、φ1,000mm×170kw×2台) 涌谷西排水機場 : Q=14.31m³/s (横軸斜流、φ1,500mm×480Ps×3台) 幹線排水路 : 3路線 L= 5.0km (田尻川、涌谷西) 幹線用水路 : 4路線 L=15.2km (三丁目、桜の目、六軒丁、右京江) 用水管理施設 : 1式</p>			

位置図及び写真



三丁目頭首工



田尻川排水機場



涌谷西排水機場



右京江取水工

大崎農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業			地区名	大崎
受益面積	10,425ha（用水改良10,425ha）				
関係市町村	大崎市（旧古川市、旧三本木町、旧岩出山町、旧田尻町）、加美町（中新田町）、美里町（旧小牛田町、旧南郷町）、涌谷町				
関係土改区	大崎土地改良区、江合川沿岸土地改良区、小牛田町土地改良区、涌谷町土地改良区				
総事業費	当初計画 (H6年9月事業確定) (10,660ha) 26,400百万円	第1回計画変更 (H12年7月12日確定) (10,425ha) 36,000百万円	H21時点総事業費 百万円 33,905	完了総事業費 千円 33,752,309	
	調査計画		全体実施設計	工期	施設機能監視
事業期間 (年度)	S57～S59		H5	H6着工～H21完了	H22～H24
負担区分	国：70%		県：25%	市町村：5%	土改区：-
事業概要	<p>本地区は、宮城県北部に位置し、北上川水系江合川の両岸に広がる大崎市他外3町に跨る水田10,425haの地域で、県内有数の穀倉地帯である。この地区のかんがい用水は、主要水源を江合川及び地区内小河川等に依存しているが、いずれも河川自流量に乏しく恒常的な用水不足を呈しており、水路の堰上げや揚水機による反復利用及び番水等により辛うじて用水不足に対処している状況にある。また、取水施設は小規模で老朽化が著しいうえ、水路は用排水兼用で土水路が多く、加えて末端用排水施設の不備と農道及びほ場区画の狭小等により、水田の汎用化や農業の生産性向上が阻害されている。</p> <p>このため、本事業では、江合川支流岩堂沢に岩堂沢ダムを築造し、農業用水を確保するとともに、頭首工、揚水機場及び用水路を新設、改修して用水の安定供給と用水管理の合理化を図るものである。併せて、関連事業により末端用水路の整備及び区画整理等の土地基盤整備を実施し、営農の合理化と複合経営を促進し、地域農業の生産性向上と農業経営の安定を図るものである。</p>				
施設概要	<p>岩堂沢ダム：重力コンクリート　ダム総貯水量13,480千m³、ダム有効貯水量13,000千m³ (H=68.0m、L=200.0m)</p>				

位置図及び写真

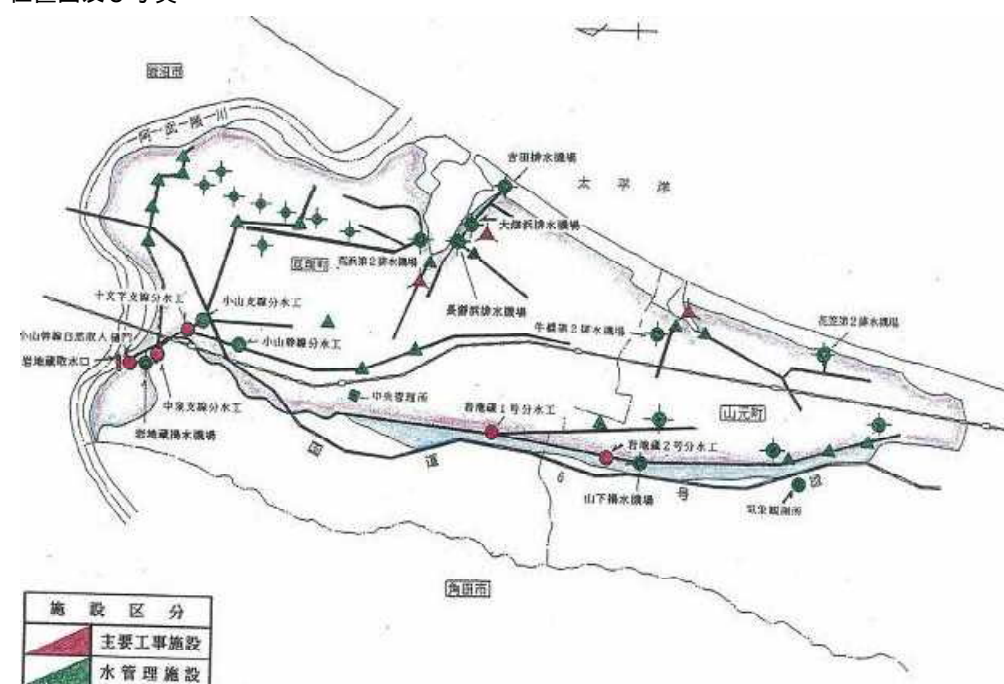


岩堂沢ダム

亘理・山元農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業			地区名	亘理・山元
関係市町村	亘理町、山元町				
受益面積	4,080ha				
関係土改区	亘理土地改良区				
総事業費	当初計画 (H9年1月事業確定) (4,080ha) 2,800百万円	H12時点総事業費 百万円 2,902	完了総事業費 千円 2,902,152		
	調査計画	全体実施設計	工期	施設機能監視	
事業期間 (年度)	—	H6～H7	H8着工～H12完了	—	
負担区分	国：2/3		県：17%	市町村：10%	土改区：6.34%
事業概要	<p>亘理・山元地区は、宮城県東南部に位置する福島県境に接する太平洋岸に位置し、亘理町及び山元町に跨る約4,080haの農業地帯である。亘理・山元地区のかんがい用水は、阿武隈川に依存し、県営土地改良事業（昭和43年度～昭和59年度）により造成された頭首工、揚水機場及び用水路によって受益地内に配水されている。また、地区の標高は0～8mの低位部に位置し、降雨時には排水不良による水害等の発生が多かったことから、国営かんがい排水事業亘理地区（昭和34年度～昭和46年度）及び県営土地改良事業（昭和28年度～昭和44年度）により排水機場等が整備されている。これらの施設のうち、頭首工のゲートや用水路の分水施設については、使用頻度が多い上に塩害及び年数の経過に伴う劣化等から度々故障を生じ、適切な操作が困難となり、排水路護岸については、年数の経過に伴う劣化等の他に排水機場からの水流の影響等から破損が認められ、改修の必要性が生じてきた。また、施設は広範囲に配置されているうえ、近年の営農形態の変化も見られることから、このような状況に対応した適正な用水配分や降雨時の迅速かつ効率的な排水が困難になってきていた。</p> <p>このため、本事業によりこれらの用排水施設の改修と水管理施設の整備を行い、用水供給の安定及び用排水管理の合理化を図るとともに、併せて関連事業として末端用排水路の整備及び区画整理事業等を行うことにより農業経営の安定と近代化を図ることを目的とした事業である。</p>				
施設概要	<p>頭首工改修 1ヶ所（岩地蔵取水口改修：Q=11.70m³/s） 用水路改修 3路線（分土工改修：5ヶ所）、排水路改修：3路線（合流部改修：3ヶ所） 水管理施設 1式（中央管理所、子局及び孫局：1ヶ所） （新設土地改良区事務所内に併設、建屋共同工事）</p>				

位置図及び写真



中央管理所



集中管理室

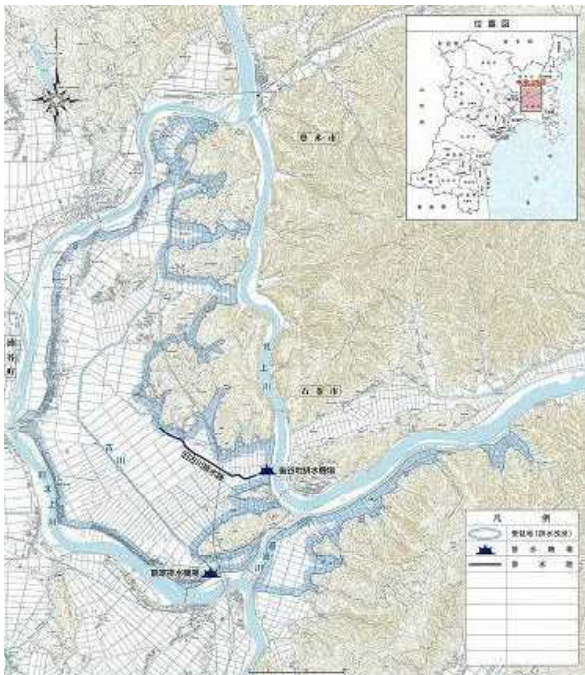


岩地蔵取水口

中津山農業水利事業

事業名	国営かんがい排水事業		地区名	中津山
受益面積	3,193ha (排水改良3,193ha)			
関係市町村	石巻市、登米市			
関係土改区	石巻市北方土地改良区			
総事業費	当初計画 (H20年度確定) (3,193ha) 15,400百万円	H20時点総事業費 百万円 15,400	完了予定総事業費 千円 15,400,000	
	調査計画 H14～H18	全体実施設計 H19	工期 H20着工～H31完了予定	施設機能監視 H32～H34予定
事業期間 (年度)	国：2/3 県：17.0% 市町村：6.0% 土改区：10.34%			
負担区分	国：2/3 県：17.0% 市町村：6.0% 土改区：10.34%			
事業概要	<p>本地区は、宮城県の北東部に位置し、一級河川北上川水系北上川及び旧北上川に囲まれた水田地域である。本地区の営農は、ほぼ全域でほ場整備が実施され、稲作を中心に水田の畑利用による大麦、小麦及び大豆等を組み合わせた複合経営を展開しており、県内有数の農業地帯を形成している。</p> <p>昭和初期から昭和40年代にかけて造成された本地区の基幹排水施設は、これまで水稻の湛水被害の軽減に寄与してきたが、近年では土地利用の変化による流出量の増加により、転作作物を中心に湛水被害が発生している。また、排水機場等は造成後相当の年数が経過していることから老朽化が著しく、施設の維持管理に多大な労力と経費を要している状況にある。このため、本事業では新たな排水計画を構築し湛水被害を解消するとともに、老朽化した排水施設の改修を行うことによって、地域の農業生産性の向上と農業経営の安定を図るものである。</p>			
施設概要	排水機場 2ヶ所 鶴家排水機場 : Q=27.00m ³ /s (φ 900mm×1台、φ 1,500mm×1台、φ 2,000mm×2台) 後谷地排水機場 : Q=20.00m ³ /s (φ 1,200mm×2台、φ 1,650mm×2台) 排水路 旧古川排水路 : L=3.1km			

位置図及び写真



鶴家排水機場 (現況)



鶴家排水機場 (室内)



鶴家排水機場 (整備イメージ)



後谷地排水機場 (現況)



後谷地排水機場
(第1機場内)



後谷地排水機場
(第2機場内)



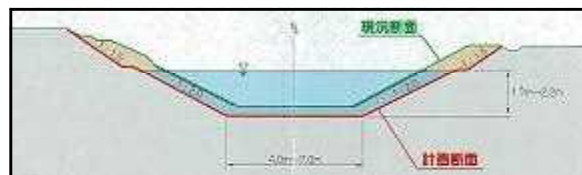
後谷地排水機場 (整備イメージ)



旧古川排水路 (現況)



旧古川排水路 (計画)

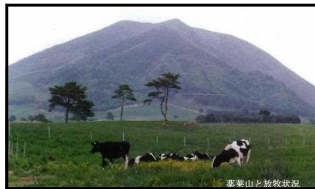


旧古川排水路標準断面図

薬菜山麓開拓建設事業

事業名	国営開拓建設事業（国営開拓パイロット）		地区名	薬菜山麓	
受益面積	787ha（農地造成787ha（開畑787ha）、地区面積965ha）				
関係市町村	加美町（旧小野田町）				
関係機関	加美町農政課（旧小野田町農林課）				
総事業費	当初計画 （S42年3月22日確定） （556ha） 620百万円	第1回計画変更 （S46年12月27日確定） （896ha） 1,300百万円	第2回計画変更 （S49年3月23日確定） （787ha） 1,422百万円	S48時点総事業費 百万円 1,422	完了総事業費 千円 1,442,605
	事業期間 （年度）	調査計画 —	全体実施設計 S40	工期 S41着工～S48完了	施設機能監視 —
負担区分	国：75%		県：12.5%	市町村：—	農家：12.5%
事業概要	<p>本事業地区は、仙台市の北北西約50km、大崎市の西約18kmに位置する宮城県加美郡加美町で、地区の西部の奥羽山系と仙台平野が接する地にそびえる薬菜山（別名「加美富士」標高553.1m）の裾野に展開する標高150～372mの丘陵台地である。この薬菜山は積雪が多く、水源に乏しいためかつては野草利用の採草地であったものが馬産の衰微と共に、裾野一帯が雑灌木化してきていた。他の自然条件からみて多くの開発可能地を有しておりその大部分は町有地であった。小野田町（現加美町小野田）は、この恵まれた立地条件にある未利用地を開発して、地域農家の規模拡大による自立安定農家育成を計るため採草地の造成を強く要望した。</p> <p>本事業は薬菜山麓の丘陵台地に農地造成・道路・土壌改良・防災施設・飲雑用施設の末端に至るまで一貫施工を行い、道路は営農を主眼として計画し、ほ場管理の利便・市場との連絡・並びに大型農業機械等の機動力の発揮・農場で生産した牧草と受益農家との供給等を考慮し既設県道・町道との関連と地形上から幹線道路、支線道路を設置した。パイロット事業の伸展に伴い効果の促進を計るため、総合酪農組合が設立された。この結果、恵まれた薬菜山麓の自然条件と造成地に放牧した牛・馬・羊に親しむ格好のレクリエーション基地として多くの人を集め、安定した農業経営と相俟って町の活性化に大きく寄与している。</p>				
施設概要	牧草地：787ha、土壌改良：787ha 幹線道路：3路線 L=22.85km（アスファルト舗装）、支線道路：8路線 L=15.08km 簡易水道：6ヶ所 防風林：1式				

位置図及び写真



牧草地（全景）



牧草地



薬菜だいこん



農産物販売加工施設
「やくらい土産センター」

山元農地再編事業

事業名	国営農地再編整備事業		地区名	山元	
受益面積	638ha (区画整理632ha、農地造成6ha)、地区面積773ha)				
関係市町村	山元町				
関係土改区	亶理土地改良区、亶理郡坂元土地改良区				
総事業費	当初計画 (H8年7月24日確定) (633ha) 9,800百万円	第1回計画変更 (H13年11月23日確定) (638ha) 13,700百万円	H15時点総事業費 百万円 13,700	完了総事業費 千円 13,683,667	
	調査計画 H2～H6	全体実施設計 —	工期 H7着工～H15完了	施設機能監視 —	
事業期間 (年度)	—				
負担区分	国：2/3		県：17%		市町村：10% 土改区：6.34%
事業概要	<p>本地区は、宮城県南東部に位置し、JR常磐線の西側から阿武隈山地山麓まで標高2～40mの平坦な地形をなしている。本地区の耕地面積のうち水田においては、ほ場整備が未整備もしくは10a区画の水田がほとんどで、末端水路は用排兼用水路である。また、畑是水田の縁辺部に散在し、全て未整備の状況である。農業経営は水田が主体であり、経営規模が小さい上、所有地が分散していることから、農業の近代化が遅れており、生産性の低い営農を余儀なくされている。</p> <p>このため、本事業では、既耕地等を再編整備する区画整理750haと水田の地目変換による7haを一体的に施行し、農地の地目別集団化を行い効率的な土地利用並びに労働生産性の高い農業経営の展開が可能な生産基盤の形成を可能にすることを目的にしている。また、水田においては、加圧機場により用水路をパイプライン化にすることにより、担い手農家への農地の利用集積による経営規模の拡大と経営の合理化を図り、畑においては施設園芸の集団化による高生産性農業を確立するとともに、公共施設用地等への計画的な用地を創設する等土地利用の秩序化を通じ、農業の振興を基幹とした地域の活性化に資することを目的にした事業である。</p>				
施設概要	<p>区画整理 : 632ha 農地造成 : 6ha 加圧機場 : 10ヶ所(1機場2台、口径φ200mm～350mm) 調整池機能回復 : 5ヶ所(既存ため池改修整備(改修概要: 堤体補強、取水設備改修整備、洪水吐改修整備) 用水路 : L=79.6km(パイプライン主体)、反復揚水機場 7ヶ所、基幹排水路: 7路線 L=6.0km 幹線道路 : L= 2.4km(B=7.7m b=5.5m)、支線道路: L=74.8km(B=5.0m b=4.0m)</p>				

位置図及び写真



区画整理 (全景)



イチゴ団地



農産物直売所
「夢いちごの郷」